

平成20年12月26日

周南市長 島津 幸男 様

熊毛地区地域審議会  
会長 丸山 和之



### 新市建設計画の進捗状況に対する意見等について

周南合併から早くも5年余りが経過し、周南市としての一体感が醸成される中、「すべては市民のために」という島津市政のスローガンの下、「周南再生」に向けたまちづくりが着実に進められておりますことに、心から感謝と敬意を表します。

さて、当審議会は、合併後10年間の新市を建設していくためのマスタープランとされた新市建設計画の進捗状況につきまして、慎重に審議を行い、このたび別紙のとおり協議がまとまりました。

つきましては、当審議会の総意として提出いたしますので、何卒特段のご配慮を賜り、今後の市政に活かしていただきますようお願いいたします。

# 新市建設計画の進捗状況に対する意見等について

## 1. 全般的な事項

### (1) 熊毛地区に係る合併後の主な事業と評価

ケーブルテレビは平成18年度に全市エリア拡大が完了し、また、熊毛中央都市区画整理事業も、関連工事の完了が目前となってまいりました。こうした事業の推進は、合併効果によるものであり、高く評価されます。

また、21のリーディングプロジェクトに掲げられている(仮称)「コアプラザ熊毛」整備事業については、これまで熊毛地区地域審議会から2度にわたる建議も行ってきましたが、今年度の当初予算に設計費が計上され、従来の「検討中」から、ようやく具体的に事業が進められつつあります。また、水道基盤整備事業についても第2期地域審議会から建議を提出し、現在は国・県との協議がすすめられつつあり、今後の事業推進に大きな期待をするものです。

### (2) 今後の事業推進について

#### ① 未着手事業の理由説明と検証

国道2号熊毛4車線化を始め、県道1路線、市道9路線、農道・林道で3路線等、道路整備に係るものの他、高水公営住宅、総合スポーツ施設、大河内近隣公園、合併記念化公園、小・中学校3校の改修工事、ほ場整備事業などが「未着手」となっております。

これらの事業の中には、今後、事業の着手が見込まれるものもあると思われませんが、こうした新市建設計画に位置付けられている「未着手」事業については、理由を明確にし、市としての考え方を市民に示すべきです。

また、こうした計画を変更する場合は、関係団体や住民の意見をしっかり聴いたうえで十分な検証を行い、市民への情報提供に努める等、慎重な対応を求めます。

#### ② 事業計画と財政計画の整合を図り、優先度と地域のバランスを考慮した事業推進を

平成22年度からは「後期基本計画」と位置づけて事業が進められていくこととなりますが、現実的な計画とするためには、事業計画と財政計画の整合性が必要です。

厳しい財政状況の中で、市が何もかも一度に事業を進めていくことは困難であり、国や県とのより一層の関係強化を図るとともに、事業に優先度を考慮し、急を要する事業は、迅速な対応をすすめることが大切です。

また、旧2市2町の4地区における、バランスを考慮した事業推進も望まれます。

#### ③ 積極的な情報公開とともに、市民と行政が一体となったまちづくりの推進

新市建設計画の進捗状況については、引き続き、定期的な情報提供が必要です。事業の推進に当たっては情報公開をしっかりと行い、市民と行政が一体となったまちづくりが推進されることを期待します。

## 2. 個別事項

### (1) 地域拠点施設について

(仮称)「コアプラザ熊毛」整備事業(No.2)については、住民説明会だけでなく、各施設の利用者等の意見をこまめに収集し、整備を進めていくことが大切です。

市民どうしの交流が深まり、地域の連帯感向上に繋がるコアプラザが建設されることを期待します。そして、コアプラザを会場にした、(仮称)「コアプラザまつり」もすすめていきたいと考えます。

また、コアプラザは熊毛地区の中心拠点であり、周辺地域からの交通手段の充実が望まれます。

### (2) 国道、県道、市道について

岳陽大江線(No.58)は藤ヶ台団地の完成により、今後、交通量が増加し、国道2号線との接続に支障が出ることも危惧されることから、道路改良工事の優先度を上げることが望まれます。

高水笠野線(No.41,42)は、中学校への安全な通学路となり、またコアプラザとサンウイングとの連携においても重要な道路です。熊毛中央地区への生活道路かつアクセス道路となる等、熊毛地区のまちづくりとしての観点からも、当線の整備が求められます。

また、西原安田線は農協西側の信号から熊毛インターまでを2期工事として建設計画を進め、国道と熊毛ICとを結ぶ重要なアクセス道として、建設計画を進めていただきたいと考えます。

### (3) 上下水道

水道未普及地域への水道施設整備(No.95)については、国、県、光広域水道企業団との協議が進められておりますが、今後水道料金の設定等については、事業の採算性や市民への経費負担等、慎重な検討が重要です。

なお、公共下水道整備事業については、地域住民が強く望んでいる事業であり、積極的な施策を期待するものです。

### (4) 行政、文化・スポーツ

地域情報通信基盤整備事業(No.110)としてCATV網整備補助が掲げられ、すでに平成18年度中に事業が完了しておりますが、今後は双方向通信を利用した広報や防災等、有効活用の検討が必要です。

鶴保護施設整備事業(No.116)については、昨年2羽の保護鶴が放鳥されましたが、日本海を北上途中で信号が途絶え、落下したと考えられています。ツル保護への取り組みは、世界的にも注目されているものであり、極めて貴重で重要な取り組みです。発信機等、ツルへの負担を軽減化する等、事業推進に向けた検討を十分行い、確実な整備事業の完工を目指して進めていただきたいと考えます。

### (5) 子育て・教育

三丘小学校校舎大規模改修事業(No.145)、八代小学校校舎・屋体改築事業(No.146)、ならびに熊毛中学校校舎・屋体大規模改修事業(No.147)については、子どもの安全上からも校舎耐

震化の早期調査を実施し、一日も早い改修事業の着手を求めます。

特に熊毛中学校の教室や体育館については、老朽化が目立っており、外壁の傷みもひどい状態です。トイレも明るく清潔なものに、また空き教室の活用も検討すべきだと考えます。

#### (6)安心・安全

防災情報システムの整備(No.155)については、災害時の助け合いネットワークづくりが必要です。危険箇所や高齢者、障害者の最新状況を常に把握するとともに、そのためのネットワークづくりが大切です。各校区に設立されているコミュニティ組織や地区社協を利用し、防災ネットワークのチームを作り、情報収集や防災訓練などに取り組み、安心・安全なまちづくりに努力することが急がれます。

#### (7)道の駅

道の駅の整備(No.212)については、周南再生戦略会議から「道の駅設営計画」が答申され、現在、実証実験が進められています。

熊毛地区への「道の駅」の設置に当たっては、熊毛のPRが図られ、地域活性化につなげていくものとして期待するものです。設営促進に当たっては、地域の力を結集し、市の部局を網羅する仕組みを立ち上げ、早急に強力な推進母体を構築しなければなりません。

特に、採算性についてはしっかりとした検討を行い、集客力を確保するための特色ある品揃えを整えることが大切です。

(以上)